

「目指す姿」(素案)について

現 状		あるべき状態	目指す姿(素案)
1 現行計画策定後の主な環境変化等	(1)経済・社会情勢等の変化	・ウクライナ危機により燃料価格高騰。円安による輸入コスト増を契機に物騰。 ・生産年齢人口の減少に伴う人手不足の加速。働き方改革に伴う運送業・建設業の時間外労働の制限。公共工事の入札不調が多発。	・急激な社会経済の変化の中でも、 適切かつ計画的 な更新・維持管理ができています。
	(2)地域コミュニティのあり方の変化	・コロナ禍等の社会環境の変化による地域活動の縮小。 ・地域活動に参加しない人の増加。地域の担い手の減少。	・ 地域活動の活性化 が図られ、 温かい地域コミュニティ が営まれている。
	(3)コロナ禍を契機としたライフスタイルの変化	・柔軟な働き方の浸透など、コロナ禍を契機としてライフスタイルが変化。 ・ゆとりある屋外・室内スペースへのニーズが増加。	・ライフスタイルの変化に伴い多様化・複雑化するニーズに対し、 フレキシブル に対応できている。
	(4)テクノロジーの目覚ましい進化	・AI、ICT、ロボットなど、目覚ましいテクノロジーの進化に伴い、公共施設等のサービスの変革が進められている。	・テクノロジーを活用して、 効率的・効果的 にサービス提供している。 ・ サービスの変革を踏まえた機能配置 がされている。
	(5)まちづくりの動向	・町田駅周辺の再開発や団地再生の機運が高まっている。 ・モノレール延伸実現に向けた道路整備等の取組が進んでいる。 ・立地適正化計画の検討の中で都市機能配置の考え方の整理が進む。	・公共施設の再編が まちづくりと連動 し、交流、体験、にぎわいの創出といった 新たな価値が創出 されている。
2 国・市の主な動向	(1)国の動向	・公共施設のユニバーサルデザイン化や脱炭素化等を推進。 ・埼玉県八潮市の道路陥没事故を受けた対策の検討を進めている。	・ 環境・人にやさしい 持続可能な公共施設として更新・運営されている。 ・ 重大事故未然防止 のための対策がなされ 安全が確保 されている。
	(2)市の主な動向 (関連計画の策定状況等)	・「まちだ未来づくりビジョン2040」を策定し「2040なりたい未来」等を示す。 ・都市づくりのマスタープラン、町田駅周辺開発推進計画、地域ホッとプラン等の関連計画の検討・策定が進む。 ・新たな学校づくり推進計画など、個別施設計画の検討・策定が進み、学校、市民センター等を地域の拠点に位置づけるなど公共施設の適正規模・適正配置の方向性を具体化している。	・上位計画・個別施設計画等に基づく戦略的な 選択と集中 により 持続可能性の確保 と 新たな価値創出 を実現している。 ・小・中学校等が 地域拠点 となり、温かい地域コミュニティが形成されている。
3 取組状況 現行計画の	(1)短期再編プログラムの進捗状況	・取組の約9割が完了予定。方針等を示す計画・構想等の策定段階から、個別具体的な再編プロジェクトの実現に向けた整備等の推進段階へ進展。総論賛成各論反対の傾向が表出。	・公共施設等の「より良いかたち」を 市民と共に考え共有 し、多様な主体と再編を 着実 に推進している。
	(2)数値目標に関する評価	・更新費用は目標水準を超えている。また、適切な時期に必要な更新を実施できていない可能性がある。加えて、物騰などにより更新費用の増大が見込まれる。	・公共施設等の管理 費用が持続可能な水準 に抑えられている。 ・また、更新が計画的に実施され 費用削減・平準化 が図られている。
4 公共施設等を取り巻く現状	(1)人口・財政状況等の変化	・人口減少局面。生産年齢人口の減少顕著。児童・生徒数減少の加速。 ・社会保障費等が増加。財政構造が硬直化。財政状況はより厳しい状況。	・ 人口分布の変化 に併せて公共施設が適正規模で適正に配置されている。 ・ 将来の財政見通し に基づき支出可能な費用水準に抑えられている。
	(2)公共施設・都市インフラ施設の老朽化	・公共施設・都市インフラ施設の老朽化が進んでいる。 ・公共施設の総量は増加傾向。	・適正な更新が実施され、いつでも誰でも 安心して利用 できている。 ・ 適正に管理可能な水準の施設総量 となっている。
5 市民ニーズ	(1)アンケート調査	現在、実施中 ※ 第3回町田市公共施設等総合管理計画検討委員会(10月8日開催予定)にて、実施結果をご報告のうえ、「目指す姿」(案)に反映予定。	
	(2)ワークショップ		
	(3)子どもの意見聴取		

安全で持続可能な“基盤”

- 将来的な行政需要などを見据えた適正規模・適正配置
- 老朽化の状況に応じた適切かつ計画的な更新・維持管理
- DX等によるサービスの変革を踏まえた効率的な配置・サービス提供

将来の町田で活躍する世代に負担を負わせることなく、誰もが安心して安全に利用することができる

- 持続可能な環境の維持・保善のための環境に配慮した管理運営
- 誰にとっても分かりやすく使いやすいようバリアフリー化、UD化

誰もが快適に利用できている

新たな価値を生み出す“場”

- 町田駅周辺再開発等のまちづくりとの連動や、戦略的な選択と集中により“町田に行ってみよう”と思ってもらえるような魅力を生み出している

利用者が、そこに行かないと体験できない都市的な活動を楽しんでいる

- 公共施設のあり方見直しや、再編・整備、再編により生み出された新たな空間の活用等にあたり、民間事業者等のノウハウ・活力を導入し、時代の変化に柔軟に対応した価値・サービスを提供している

市民が、便利さや楽しさなど、多様なまちの魅力を感じながら暮らしている

- 多様化・複雑化するニーズに対応したフレキシブルな空間にすることで、市民や地域団体等が気軽に利用でき、活動、交流、つながりを生む
- 行政だけでなく多様な主体とともに考えつくりあげていくことで温かな地域コミュニティの拠点として、そこにあることでホッとできる“よりどころ”になっている

地域住民が、安心して暮らすことができる